

一 次の文章を読み以下の問いに答えなさい。

だいたい子どもたちのすることは一見、**ア残酷**である。トンボのしつぽをちぎったり、カエルの腹に空気をいれたり、いろいろないたずらを**容赦なく**やつてのける。そのかわり（\*）も彼らに**容赦することはない**。森に入れば、ハチに刺されたり、マムシにかまれたりすることも（1）**珍しくはない**。ウルシにかぶれてひどいめにあうことなど、①**だれもが一度は経験する自然との間の儀式のようなものである**。こうして、知らず知らず子どもたちの心の中に、**自然への真のイアイチャク**や知識が育っていく。

【どうやら子どもには、自然とつきあうための不思議な体内時計が**ウソナ**わっているらしい。私の少年時代も、夏は子どもだけが集まって川へ泳ぎに行くのが**エ常**であった。当時はだれひとり時計なんか持っていないのに、だいたい同じ時刻に**集合**し、また同じ時刻に水泳をやめてそれぞれの**オ家路**についていたものである。いわば、鳥の群れがいつせいに飛びたったり、魚の群れが一瞬の間にそろって方向を変えるのにも似ている。】悲しいことに大人には、もはや②**こういう能力はほとんどない**。（2）子どもたちが、ごくあたりまえのように自然と一体になれるのも、自然とつきあうための資質がそこなわれることなく残されているからに**ちがいない**。

（北村昌美『森を知ろう、森を楽しもう』より）

〈設問〉

問一 二重線部ア～オのカタカナは漢字で、漢字は読みをそれぞれ答えなさい。

問二 （\*）にあてはまる言葉を本文中より二字で抜き出さない

問三 **集合**の対義語を漢字二字で答えなさい。

問四 （1）・（2）に入る言葉として適切なものを次から選び記号で答えなさい。

ア おそらく イ 例えば ウ まるで エ しかし オ けっして

問五 波線部ア～オのうち文法的な働きが異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問六 傍線部①「だれもが一度は経験する自然との間の儀式のようなもの」の具体例として**適切でないもの**を次から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 田んぼからカエルの鳴き声が聞こえてくる。
- イ 公園のベンチで休んでいたら蚊に刺された。
- ウ 外で遊んでいたら突然の雷雨に襲われる。
- エ 海で泳いでいたところクラゲに足を刺された。

問七 傍線部②「こういう能力」はどのような能力ですか。「～という能力」形式に合わせて本文中より九字で抜き出さない。

問八 【どうやら～似ている。】の部分の文章構成として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 感想↓体験の実例↓まとめ
- イ それを裏づける事実↓感想
- ウ 意見↓体験の実例↓一般的事実
- エ 一般的事実↓それを裏づける体験↓意見

二 次の文章を読み以下の問いに答えなさい。

数年前、日本人学生対象の授業で、教科書に載っている短い文章を音読するというテストを実施した。学生が数人ずつ前に出て、指定された箇所を読み上げる。前に出てきた学生の一人が私に言った。

「教科書、忘れてきちゃったんです。貸してもらってもいいですか」

私は「いいですよ」と答えた。忘れてきてしまったものを今さらとやかく言ってもしょうがない、今日のところは友達に借りるなりして読むほかないだろう。私はそう考えながら、学生が教科書を調達してくるのを待とうとした。

ところが、当人はその場を動こうとしない。しかも何かを待っている様子だ。その視線は教卓の上の私の教科書に向けられている。このときになって初めて、学生の言った「貸してもらってもいいですか」の意味を理解した。友達に貸してもらってもいいかと許可を求めたのではなく、私の教科書を貸してほしいという依頼だったのだ。なぜ学生は、「貸してください」と言わなかったのだろうか。

「貸してもらってもいいですか」と言うときには、話者と相手のほかに、もう一人の人物の存在があると、長い間思っていた。たとえば、試験を受けている最中に、消しゴムを忘れた学生が隣に座っている友達に借りようとする。しかし、横を見たり手をのばしたりすると、監督者に不審を抱かれる恐れがある。そのため、「隣の人に消しゴムを貸してもらってもいいですか」と試験監督に声をかけて、許可を得ておく。横にある消しゴムを指差して「貸してもらってもいいですか」とだけ言ってもよい。消しゴムを貸すという動作を行うことが期待されているのは、質問が向けられている相手ではなく、別の人間だ。相手にはあくまで許可を求めている、貸してくれとは言っていない。これが私の認識であった。

(野口恵子『バカ丁寧化する日本語』より)

問 二重線部「貸してもらってもいいですか」について、学生と私(筆者・教授)の認識の違いを八十字程度でまとめ説明しなさい。ただし、「教科書」・「許可」・「相手」の三つを必ず用いること。(順序は問いません)